

警報

交通死亡事故 連続発生

8月13日午前6時50分ごろ、国見町の県道34号線上で横断歩道を横断中の歩行者（62歳）が、軽自動車にはねられ死亡する事故が発生しました。

さらに、同日夕方、岩崎町でも道路横断中の歩行者（77歳）が普通乗用車にはねられ死亡しました。



■8月13日午後7時55分頃
国道270号線を平田潟交差点方向へ進行中、右から左へ横断中の高齢歩行者をはねたもの。



■8月13日午前6時50分頃
白沢方面から知覧町方向へ右折の車両が、道路を右から左へ横断歩道を横断中の歩行者をはねたもの。

次のような点に注意をして、交通事故に遭わないように、また起こさないようにしましょう。

歩行者は・・・

- ・近くに信号機や横断歩道があるときは、少し遠回りでも、必ず横断歩道や信号機を利用する。
- ・横断するときは、一度止まって、左右の安全を確認してから渡る。
- ・夜の外出は、なるべく白っぽい服装で出かける。また、夜光反射材を使って車の運転手から見えやすくする。
- ・歩行者も信号を守り無理な横断は絶対にやめる。

運転者は・・・

- ・わき見や考え事など漫然運転はやめる。
- ・運転中は前方をしっかり見て安全を確認する。
- ・スピードは控えめに、安全な速度で走る。
- ・シートベルトをしっかり締める。
- ・飲酒運転は、絶対にダメ。
- ・早めに点灯（午後3時）を心がける。



桜山中3年
岩田有加

初めはマレーシアの生活に不安ばかり感じていました。けれども、ホストファミリーの優しさや訪問した学校の生徒たちの人なつこきにそんな不安は吹き飛んでしまいました。言葉の壁を感じてもどかしいこともありましたが、身振り手振りで接するうちに気持ちが通じ合い、楽しく過ごすことができました。



枕崎中学校2年
上野真由子

マレーシアでホストファミリーと過ごしたことで、住む国は違っても、人の心は分かり合えるのだということ強く感じました。言葉は分からなくても、態度で人の温かさは伝わるし、ジェスチャーを交えて一生懸命話しかければ思いは通じ、心と心は結び合うことができると思いました。本当に楽しい1週間でした。



別府中学校3年
鮫島 茜

この研修での一番の思い出はすばらしいホストファミリーに出会えたことです。不安で一杯だった私たちは笑顔で温かく接してくれるファミリーのお陰で、毎日毎日とても楽しく過ごすことができました。それだけに別れの日にはものすごく辛く、悲しいでした。また、いつかみんなでマレーシアに行き、再会したいです。

マレーシアでの体験を終えて・・・

心踊った感動の ～青少年国際交流事業

今回で13回目を迎えた「青少年国際交流派遣事業」。本年度は7月21日から28日までの7泊8日の日程で行われました。

参加した6名の中・高校生は、マレーシアでのホームステイや現地の学校訪問などを通じて交流を深め、胸一杯の感動と自信と誇りとたくましさをもつけ、元気に枕崎へ帰ってきました。

参加レポート

7月21日
枕崎出発。飛行機を乗り継ぎ、マレーシア・クアラルンプールに午後8時着。

7月22日～25日
クアラルンプールから飛行機でホームステイ先のランカウイ島へ。ホストファミリーの温かい歓迎に団員の不安は吹き飛びました。(①：家族との楽しい食事)

学校訪問では全校生徒にあいさつ後、地元料理にも挑戦しました。(②③)

7月26日
お世話になったホストファミリーとの涙の別れの後、クアラルンプールへ。(④)

7月27日
学校訪問では、はっぴ姿で枕崎の説明をしたり、枕崎音頭を踊りました。(⑤⑥)



鹿兒島水産高等学校3年
岡本史彦

この国際交流に参加できたことで、マレーシアの文化や歴史、豊かな自然にふれるなど、貴重な経験することが数多くできました。

今回、マレーシアについて学ぶことができたのが、世界にはまだまだ知らない国が数多くあります。これからも、いろいろな国を訪ねてみたいです。



枕崎中学校2年
山神嵩大

ホストファミリーの人たちはとても優しく愉快な人たちばかりだったので、楽しくホームステイができ、本当に良かったと思います。また、マングローブの森林のツアーや驚の餌付けなど、日本ではできない体験もすることができ、うれしかったです。マレーシアは自然が豊かで、空気の澄んだきれいな国だと思いました。



枕崎高等学校1年
谷山美咲

私は外国に行ったことがなかったので、マレーシアに行くまでは不安で仕方ありませんでした。けれども、ホストファミリーのお陰で楽しく、充実した毎日を送ることができ、帰国の日には「もう少し、ここにいたい」という気持ちで一杯でした。またいつか、同じメンバーでマレーシアを訪れたいです。